

浄泉寺護寺会報

URL <http://e-jousenji.com/>

発行者 浄泉寺護寺会会長 庄 司 寿 夫

新しい一步を求めて

浄泉寺護寺会 会長 庄 司 寿 夫

去る6月24日(日)真夏を感じさせる暑い日、浄泉寺護寺会総会が開催されました。門徒の皆様には、ご多用のところ大勢のご出席を頂き深く感謝申し上げます。私事ですが、今回の総会には1期3年、勤めの最後の挨拶をと臨んだつもりでしたが、会長に再選されたことに重責と不安な気持ちが交錯しているところです。これから3年間、微力を尽くしたいと思いますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、同朋の会が発足してから5年目を迎えております。「お寺・護寺会・同朋の会」はトライアングルの様なものではないかと思ひます。この三者がご住職のご指導をいただきながら、それぞれの音を出し、仏業に取り組むことが大切だと思います。特に、春のつどい・帰敬式は三者の集大成かと考えております。その帰敬式も今年で5回目が実施され、総計57名の方が「法名」を授与されました。

常々ご住職は「法名は一般的に亡くなってからいただくものと思われています。しかし、法名は、生前中に頂き、仏門に入るスタートであります」と言われています。私たちの生き方を問う帰敬式だ

と思います。

また、去る5月31日には「フィールドワーク鬼首の阿弥陀如来像探訪」が実施されました。約20名の方が参加されました。浄泉寺本堂の左奥にある阿弥陀如来像は、30年位前、鬼首の高橋家にあったものですが、高橋家が民宿開業するにあたり、浄泉寺に移転されたものです。その阿弥陀様のルーツを探しての探訪でした。探訪に先立って、4月22日東北大学、長岡教授と研究生10名が浄泉寺を訪れ、その像を調査しました。象の台座の結合の臍(ほぞ)に「鬼首道意」と記されており、江戸時代中期のものである可能性が高いことがわかりました。

その彫刻された「道意」のお墓を探訪する研修でしたが、途中大雨に見舞われお墓は探しかね「目的半ば」にして帰って来ました。ご住職に「もう一度出直して来い」と云うお告げの雨だと言われました。約400年前に遡るこの探訪は、参加者一同にとって、大変ロマンを感じた一日だったと思います。

これからも「開かれたお寺」を目指し、お寺・護寺会・同朋の会が三者連携し新しい一步を求めていきたいと思ひます。

春の法要奉仕団に参加して（寄稿）

浄泉寺 同朋の会 監事 菱 沼 泰 美

平成30年4月1日、2日の両日、浄泉寺住職赤羽根證信様からのお誘いにより、真宗本廟春の法要奉仕団個人参加の部に参加させていただきました。

京都は春の真つ盛り、桜の花も満開で私たちを心地よく迎え入れてくれました。全てが始めての出来事で、不安と期待が同居した2日間でした。

1日、10時にご住職と東本願寺御影堂門で待ち合わせをし、同朋会館に向かう途中、私が急に体調不良（意識が薄れて）に遭い、ご住職の肩をお借りして研修道場に入りました。ご住職には本当にご迷惑をお掛けした事、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。3時間ほど保健室で眠っていたのですが、その間の記憶はまったく無く時間が過ぎました。その後はすっかり正常に戻り、今まで何事も無かったように午後からの両堂参拝や赤羽根聡副住職が参加された音楽法要を聞かせていただきました。

本当に多くの僧侶の皆様、本廟を埋め尽くす人々の圧巻の場に、私達は多くの不思議な、そして厳かな中に感動を覚え胸が熱くなった事を思い出します。

その後教室に移り芳原里詩教導、野田杉雄補導とオリエンテーション。夕事勤行（感話）に進み、その中では、ご本尊阿弥陀如来のことや、南無とは、ナマステなどの多くの事を学びましたが、まだまだ覚えきれず、流れと言いますか、ほんの少しだけ入り口に立っただけかもしれませんが、自分としてはなるほどと思い相槌を打っていたのですが、少し時間が過ぎると忘れてしまい、情けないものだと思

うくづく思います。

何か一つでも、気が付き、目覚め、疑問を持ち、理解出来、実行出来るようにしたいと思っている所です。

2日目の全戦没者追弔法会や、記念講演の「無義をもって義とす」では、戦没者に対する向き合い方、思い、戦争に対しての痛烈な反省の言葉を明確に話されていた事には、何回も何十回も心が熱くなり、目頭が熱くなり感動してしまいました。その様々な様子を思い出しながら日々を過ごして行きたいと思ひますし、学びを乞うて行きたいと思っています。

帰敬式は私達を含め52名の方々が受式され、菱沼泰美、真由美も法名を授かってまいりました。その法名に恥じないような思いや行動が求められていると思っており、今後の生活の中で育んで行きたいと思っております。

最後になりますが、参加させていただいた思いが四つほど心にありました。

- 一、 昨年の五月のある朝、コーヒーと一緒にした趣味仲間が突如として不慮の事故に遭い他界してしまいました事
- 二、 ご先祖様からいただいている大いなる幸せ
- 三、 70歳にして叶った三つ目の夢
- 四、 これからのお導き

様々な思いがあり、導かれ、促され、参加させていただきました。本当にありがとうございました。

わたし達の「道場さん」

寄稿 辻 直 昇



私は、福井県勝山市の山間の集落に生まれました。わたしの集落にも「道場さん」があり、子供たちは親に連れられ、一年間を通して節目の日にお参りします。道場さんの建物は道場主の敷地内にあったり、道場主の家屋の一部がそれに充てられています。

「元朝参り」では、正月3が日は地元の神社にお参りしたあと、その足で近くの「道場さん」にお参りします。道場さんでのお参りは20分から30分ほどかかります。足がしびれても我慢、自分との闘い・足を崩したら「負け」のような気もちでお参りしていました。子供ながらにお説教の進み具合がわかり、もう少しのところまでお説教が進むと「早く終わらないかな」と願いながらお参りしたことを思い出します。

昨年2月に父を亡くしました。享年89歳3か月でした。道場さんにはお通夜をしていただき、葬儀は浄願寺のご住職と道場さんにお務めしていただいてから、火葬・収骨・お寺参り（納骨）・初七日とその日の葬儀の一切が終わりました。そのあと、道場さんには初七日忌・二七忌・三七忌・四七忌・五七忌・六七忌・七七忌まで自宅の仏壇でお経さんをあげていただきました。このように、人々が集ま

って仏事を勤める道場さんには、これからも長く私たちの心の支えになっていただきたい。この写真は、祖父母の法事の際に浄願寺ご住職と道場さんを囲んでの仏壇前での記念写真です。

私たちは、古川での生活が30年になります。平成2年に実家の父から送られた仏壇を不安な気持ちで受け取り、浄泉寺ご住職に「おしょういれ」していただき、今日まで我が家の仏壇にお参りしてきました。

昨年の暮れに30年来の念願が叶い皆様の仲間入りをさせていただきました。12月に成願寺さんでの「正信掲の集い」と「報恩講」にお参りさせていただいたときには、自然と涙が流れ出てきました。長年の願いが叶いお参りできたことに安堵したのでしょう。この2回のお参りでの感動は生涯忘れません。これからもご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

平成30年春のつどい開催

平成30年5月20日、午後1時30分から浄泉寺本堂にて「春のつどい」が開催されました。内容は昨年とほぼ同様に進められ、担当する同朋の会スタッフも5年目とあって、一つひとつの動きにもしっかりと対応しておりました。

帰敬式にあっては、総勢6名。厳かな中に緊張感が溢れる素晴らしいものとなりました。この事業は毎年5月に開催されます。

帰敬式とは「おかみそり」とも言われ、宗祖親鸞聖人の教えに自らの人生を問いたずね、真宗門徒として歩み出すことを誓う大切な儀式で、受式されると「法名」が授与されます。

受式希望者は、浄泉寺住職（☎72-1168）に直接お申込み願います。

護寺会総会報告

平成30年6月24日浄泉寺護寺会総会が開催されました。

出席者全員による真宗宗歌斉唱、正信偈唱和、俱会一處前での読経焼香の後、総会開会。庶務蘇武則行氏司会のもと、庄司寿夫会長あいさつ、住職あいさつに続き、古内初夫氏が議長に選出され、事業報告等7議案を審議。すべて満場一致で可決承認されました。

平成30年度総会議案

平成29年度事業報告

平成29年度収支決算報告

平成29年度特別会計決算報告

(維持改善基金・上山研修基金)

監査報告 監事佐藤厚氏

平成30年度事業計画の承認

平成30年度収支予算の承認

役員改選(会長以下全員留任)

総会終了後には懇親会が行われ会員相互の親睦をはかり、盛会裏に終了いたしました。平成30年諸事業が効果的に運用されます様、会員皆様のご協力をお願いいたします。

帰敬式受式者研修会

既に帰敬式を受けられた方を対象に研修会を実施します。お忙しいことと存じますが是非ご参加くださいます様ご案内

申し上げます。

日時：9月12日(水)午前10時より

場所：浄泉寺本堂

会費：2千円(昼食代含)

9時30分受付 10時開会・勤行

10時30分講義

12時 … 昼食休憩 …

13時講義・質疑

15時30分恩徳讃斉唱 閉会

16時懇談・懇親 18時解散

お知らせ

万灯籠会開催

8月13日～16日午後6時30分から8時まで、万灯籠会(まんとうろうえ)が行われます。境内に灯籠を灯すお盆の恒例行事で、幻想的な雰囲気の中での墓参りは、夜の風物詩ともなりました。ご家族揃ってお出かけください。

灯籠記名のお申し込み(一基千円)は、地区役員までご連絡ください。

これからの行事等

8月 一斉清掃(墓地、境内地)、各自の墓地と本堂境内周辺

9月 帰敬式受式者研修会

10月 東北別院報恩講参詣

11月 おみがき・報恩講

31年1月 修正会(しゅしょうえ)

2月 護寺会役員一泊研修

あ

と

が

き

仙台にある東北別院で「これからの寺は如何にあるべきか」がテーマの研修会があった。

さて、これまでの寺はどんなだったのか。葬儀式や法事と、いわば死者との関わりが主なことである。それはこれからも変わることはないと思う。しかし、本来寺は佛の教えを学び伝える場である。

本願寺第十八代蓮如さんは「寺は人々が寄り合い語り合う場であり、心のよりどころとせねばならない」と説いておられる。

宗祖親鸞聖人は「一人いてよろこばば二人と思うべし二人いてよろこばば三人と思うべしその一人は親鸞なり」と私達に寄り添っています。その場こそ、寺の存在でなければならぬと思う。

南無阿弥陀仏 (住職)